

第 2 回長良川河口堰の更なる弾力的な運用に関する意見交換会の概要

開催日 : 平成23年11月30日(水) 15時05分~16時30分

開催場所 : 桑名市長島防災コミュニティセンター

主な意見

■地方自治体

- 河川環境改善は必要なことであり、フラッシュ操作だけでなく、引き続き対策をお願いしたい。しかし、塩水の遡上は絶対に避けていただきたい。
- 木曾三川の関係の歴史の中で、地元の皆様の意見が一番だと思います。これからも皆様の意見を聞いていただいて、よりよい適切な運用をよろしくをお願いします。
- 建設前にはいろいろと意見がありましたが、必要な施設です。是非、長良川河口堰の運用について、しっかりやっていただきたい。現状をよく調査していただいて、議論していただきたい。

■利水関係者

- フラッシュ操作を行うことは賛成である。今まで水を使用するに当たり、ポンプは用いず、長良川の水位を利用して水を利用してきた。開門調査を行い水位が下がったら、今まで使用してきた水が使用できなくなる可能性がある。そのため、開門調査を行う場合は、代替水源が必要である。
- 塩水が遡上すると影響が出る。長良川の水しか使用できない工業団地もあり、長良川は重要な水源である。堰上流の環境改善はいいことであるが、上流に塩水が遡上しないよう適切な運用をお願いしたい。
- 既得用水も安定的に取水できており、安定供給の確保が重要である。

■農業関係者

- 河口堰を全開したら、どの程度の被害、利益があるのか、具体的に示して欲しい。今開門したら、浸透水で被害が発生し、生活が成り立たなくなることは間違いないだろう。フラッシュ操作に関しては効果があると思われるが、塩分を遡上させることはあってはならない。
- 昭和40~50年代は塩害で苦労したが、河口堰ができてから塩害が無くなった。開門調査となると塩分を含んだ水が入ってくる。昔は川の色が緑色だったが、今では比較的綺麗になっており、フラッシュ操作等の効果が現れているのではないかと思う。開門調査はやめていただきたい。

■漁業関係者

- 弾力的運用については、堰上流のDOを改善しようという試みだと思うが、やり方によっては堰下流の環境改善も出来るのではないかと考えている。
- 今年のシジミ(漁獲量が多いのは)、フラッシュ操作回数が多く、出水も度々あったことが理由ではないか？
- H13年やH17年のような渇水の年には、揖斐川、木曾川でシジミの大量斃死があった。渇水時期が長いと硫化水素が発生し、いわゆる「すみしお」になり、人工干潟でもハマグリなどが死んだ。このような時の堰下流の環境改善も検討してほしい。
- (フラッシュ操作によって)堰下流の濁度の上昇がないか、有機物が混ざって堆積するようにならないか心配である。これら影響も考慮して、よりよい操作を検討してほしい。

■沿川関係者

- 農家は塩害に苦しんできた。河口堰により、除塩に近いものとなり野菜も採れるようになってきた。せっかくできたものなら、これをもっと使えるようにしたら、利用ということで考えていけたら良い。
- 塩水が入らないように、やっていただきたい。
- 河口堰のおかげで、洪水が早く治まるようになり、安全度が格段に向上した。住民が安全・安心で生活できるよう、河口の管理をお願いしたい。
- 塩水遡上についてデータが無いので計算できないなんてはずはない。塩がどこまで上がるかは計算できるはず。昔の実測資料もあるはず。河口堰を開ければどこまで塩水が遡上するのか、しっかり計算してほしい。河口堰の有効利用については大賛成。
- 生態学の出発点は、そこで生活している人の意見を聞くこと。川であれば漁師さん、山であれば木こりさんの意見を十分聞くことが非常に大切である。
- 平成6年の大渇水時には操業を停止するところまで行きました。タンクの油を抜いて水を貯めた。油会社が水を買いに走ったということである。長良川の塩害がもし起これば、四日市コンビナート企業は操業を止めるということになりかねない。ぜひ安定供給をしていただきたい。併せて、水質についても、しっかりモニタリングをしていただきたい。
- 河口堰は「なばなの里」の隣に位置し、なばなの里に見えた人が河口堰の方も見学して行こうとなるように、河口堰のことを知っていただくためにも、河口堰を知ってもらうための働きかけをした方がよい。
- 伊勢湾台風後は、地盤沈下が急激に起こり、満潮になると伊勢大橋の上流部まで潮が上がっていた。、深井戸を掘って地下水を水道として利用していたが、地下水にも塩分が流入し取水ができなくなった。河口堰ができたので、三重県の水は三重県の地内で取水できるようになった。河口堰を開門すれば、ずっと上流まで塩分が遡上すると思う。
- 河口堰を開門すると塩分が遡上する。もし塩害が起きた時、誰が補償してくれるのか。代替用水も、結局は木曾川の岩屋ダムで毎年毎年、取水制限の議論になる。
- 情報発信力の面で、易しい言葉で説明をすれば、みんなの理解の度合いも上がると思う。地盤沈下対策により地下水の汲み上げ規制があった。事業拡張に水が必要であり、水の確保については大変な思いをした。安定的な水の確保は大切である。
- 塩害を防ぐために、河口堰の運用を適切にしていきたい。フラッシュ操作による水質改善は進めていただきたいが、下流域の川の流れの影響を受ける人がいるので、流量を増やすことで、急激な水量増で危険な状態にならないように配慮願いたい。